氏名	吉野　巌
学位	博士（行動科学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育心理学 保育の心理学Ⅱ	（学術論文等） 1．音楽鑑賞における演奏者の映像の効果―音楽心理学研究に基づく仮説の実践授業での検討―	共著第1著者	平成26年6月	教育心理学研究	演奏者の映像が楽曲の認知に及ぼす影響と鑑賞授業での有効性について検討したものである。小学校5年生と大学生を対象にした研究1の結果から、「楽曲の諸要素の認知や情景のイメージには音のみ聴取が効果的である」という仮説を立て、研究2で小学4年生を対象にした2時間の鑑賞授業によって検証した。その結果、この仮説が検証され、楽器の認知についても音のみで鑑賞することの優位性が示された。両者の視聴形態の効果をふまえた上での，学習目的に応じた授業計画の必要性について議論した。共同研究により抽出不可能
	2．小学校算数文章題解決におけるメタ認知能力の育成―小学校5年生「小数の割り算」の実践授業を通して―	共著第1著者	平成24年2月	北海道教育大学紀要教育科学編	算数授業でメタ認知的思考を高めることができるか、問題解決も向上するかについて調べた。小学校5年生の実験群クラスで、メタ認知が問題解決に役立つことを説明した上で、問題解決ワークシートとメタ認知的思考を意識させるメタ認知シートを用いてメタ認知的思考を促す介入授業を約1ヵ月間行った。その結果、実験群は、統制群に対して事後テストのメタ認知得点が有意に高くなり、文章題の問題解決も向上した。また、メタ認知得点が低かった児童は4回の介入授業にわたって得点が有意に上昇した。共同研究により抽出不可能

氏名	萬　司
学位	学士（教育学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
音楽教育法B	（学術論文等） 1．アイヌ民族の伝統音楽の教材化 伝統楽器トンコリの教材化と授業開発	単著	平成30年3月	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究43号 （77頁）	論文は、アイヌ民族の伝統楽器トンコリを用いて「トーキトランラン」を教材に音楽科の学習で取り扱うように分析・選択した結果を述べている。 トンコリは、五音音階による調弦で開放弦のみを用いる表現が特徴である。そして、表現教材「トーキトランラン」は基本となる旋律型を反復する中で、リズムや構成音を変化させる手法で変奏するという音楽的構造をとる。こうして、器楽表現による授業開発を行い文化的・音楽的価値を考える学習指導を計画し、学校教育でアイヌ民族の伝統音楽に対する文化的・音楽的価値への認識を高めるために、前「座り歌と踊り歌の教材化と授業開発」に続く研究である。 （pp.25～35）
	2．アイヌ民族の伝統音楽の教材化 座り歌(upopo)と踊り歌(rimse)の教材化と授業開発	単著	平成27年3月	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究40号 （80頁）	論文は、アイヌ民族の伝統音楽の「座り歌(upopo)」と「踊り歌(rimse)」から、中学校音楽科の学習で取り扱うように分析・選択した結果を述べている。 「座り歌」は《chupka wa kamuy ran》を選択し輪唱による表現を特徴とし、「踊り歌」は《ku rimse》を選択し交唱による表現を特徴とする。これらを教材とし、表現と鑑賞の領域が関連する授業開発を行い文化的・音楽的価値を考える学習指導を計画した。現在、アイヌ語によるコミュニケーションや生活習慣等が失われつつあり、学校教育でアイヌ民族の伝統音楽に対する文化的・音楽的価値を認識することは、その保存や保護につながる。 （pp.34～43）
	3．江差（北海道）に伝わる民謡の教材化 「我が国の伝統的な歌唱」を取り扱う授業開発	単著	平成26年3月	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究39号 （104頁）	本論文は、北海道檜山郡江差町で民謡の保護や保存会の活動状況などを調査し、授業開発に必要な情報や資料の収集を行い、教材化を行った結果を述べている。 「江差沖揚げ音頭」「江差追分」を研究対象とし、歴史的文化的背景やそれと関連する音楽的特徴を踏まえて教材化を行った。いわゆるソーラン節を教材とした授業内容について、適切な取扱いが行われるように研究したものである。 （pp.61～70）

氏名	追分　充
学位	学士(教育学)

担当授業科目	著書・学術論文等の名称	単著共著	年月	発行所等	概要
道徳教育の理論と実践	（教育方法の実践例） 1.「教科教育の実践と課題」の学生教育指導		平成25年4月～現在		学校の教育課程の中核となる各教科の授業について、その設計、実行、評価を指導的立場から適切に遂行できる能力を身に付けさせる。
	2.「教育課程を創る」の学生教育指導		平成25年4月～現在		教育課程の原理や歴史的変遷、評価、潜在的カリキュラム等について理論的・実践的に学ぶとともに、教科等、特別活動、道徳科、総合的な学習の時間、外国語活動等の理想とすべき教育課程を作成する。
	3.「道徳教育の開発」の学生教育指導		平成25年4月～現在		道徳教育の重要性や児童・生徒の道徳性の発達について理解を深め、道徳教育の計画や道徳の時間の授業構築を通して、道徳教育の実践的な指導力を高める。
	4.「子どもの学びを拓く授業づくり」の学生教育指導		平成25年4月～現在		10分程度の短い模擬授業（マイクロティーチング）を行うことにより、児童・生徒の学びを切り拓く高度な授業力を身に付けるための授業。

氏名	酒井　義信
学位	修士（教育学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育方法	（著書） 1.　子どもがよろこぶ算数活動　6年	共著	平成21年4月	国土社	算数科では、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数にかかわりのある活動を通して学ぶことを重視している。その「算数的活動」の実践例を集約。担当は、おもちゃで実験した等速運動の速さ調べから比例の学習をすすめる「運動の解析から比例へ」の算数的活動プラン。（Pp..100−103）
	2.　算数・数学つまずき事典	共著	平成24年8月	日本評論社	算数・数学の学びにおけるつまずきは多様である。その中から一般的なつまずきを取り上げ、その原因と解消法を紹介。担当は、小学2年の2段くりさがりのつまずきを取り上げた「おとうさん、おじいさんから借りてきて」（Pp.31−34）
	（教育実践記録等） 1.『経済学批判』の枠組みを基盤とした授業実践	共著	平成27年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要45号	学生の「教職自主ゼミナール」での模擬授業づくり「製糖業から見る十勝」における理論的な枠組みを、『経済学批判』から関連する部分を教員が提供し、それに基づいて学生が作成した。その枠組みに基づいて作成された授業進行スライドと授業の流れから、授業において理論的な枠組みの構築を試みる意義について分析。（共同研究により抽出不可能）

氏名	扇子　幸一
学位	修士（文学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育相談の基礎と方法	（学術論文等） 1．社会自立移行に向けての学童期の支援とは	単著	平成24年11月	乳幼児療育研究第25号（北海道乳幼児療育研究会）	特別支援教育スタート後、普通学級に在籍する軽度の発達障害児童への就学期間の支援は充実して来ているが、それが真に社会移行につながるためのものとなっているか、またそうなるための条件はどのようなものであるか、スクールカウンセリング等支援の実践から分析、整理した。
教育相談の基礎	2．子どものみかたと大人の役割ー大人の期待に添って育つ若者たちを喜ぶべきか	単著	平成27年8月	子どもロジー第19号（北海道子ども学会）	虐待の急増に示されるように子どもたちの生育環境は決して好転しているとは思われない。しかし、この間、非行を始めとする問題行動は大幅に減少し、現状に満足を示す若者たちが増えている。こうした若者のありようがどのように生じているかを分析し、その健康度について考察した。

氏名	花輪　大輔
学位	修士（教育学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
美術教育法A	（著書） 1．図画工作・基礎造形	共著	平成28年3月	建帛社	図工・美術科教師を志す学生と現場教員が、造形活動や美術文化についての理解を深めるために、各分野を詳しく解説した専門書。映像メディア，文様構成，鑑賞の章の執筆を担当した。
	2．美術学習指導書2・3	共著	平成24年3月	開隆堂出版	中学校美術の検定教科書の教師用指導書。映像メディアデザインの「学校のCMをデザインしよう」の執筆を担当した。
	3．解析台湾・日本　美術教育與児童画	共著	平成22年6月	風和文化藝術有限公司	日本と台湾の美術教育の現状を比較するとともに，小中学校の授業で制作された児童生徒作品について解説する専門書。主に表現主題や技法を中心として，北海道の中学生の作品解説を担当した。
	（学術論文） 1．A Study on Task-Values of Art Education in Lower Secondary Level Ⅰ —From Comparison with the Investigation Result in MURASE(1983)—：査読論文	単著	平成27年3月	大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第47号	中学生の「美術の授業」への動機づけ研究の一環として“課題価値（Task-Values）”を測定し，先行研究における技能の評定尺度とクロス集計を試みた結果及び考察を中心に報告した。特に，性差・学齢による差異が明らかになった。
	2．A Consideration on Teaching-materials development of a low melting point alloy (For practice of the metal casting in the art education of the Elementary and Junior High Schools)：査読論文	単著	平成27年2月	日本基礎造形学会誌「基礎造形」023	低融点合金を用いた金属鋳造に関する題材開発について，地金や鋳造技法，実践の手法等の問題点を先行研究例から抽出し，新たな指導方法とその適応について提起した。特に電子レンジを活用した“脱蝋”方法が画期的だと捉えている。
	3．現代における小中学 生の絵画表現の発達 段階の検討Ⅱ－1983 年実施の「絵画表現能力 調査」結果との比較から－：（単著）（2015）	単著	平成27年2月	実践美術教育学会誌「実践美術教育」vol.9	中学生の「美術の授業」への動機づけ研究の一環として“課題価値（Task-Values）”を測定し，先行研究における技能の評定尺度とクロス集計を試みた結果及び考察を中心に報告した。特に，空間意識との関係性が明らかになった。
	4．A Report of the “Visual Media” Practical Use Situation in the South Korean Lower Secondly Level Art Education	共著	平成27年2月	北海道教育大学紀要	映像メディア先進国といわれる韓国の中学校美術における映像メディアの実施状況において，現地での聞き取り調査及び教科書分析を基に報告した。
	5．現代における小中学 生の絵画表現の発達 段階の検討Ⅰ－1983 年実施の「絵画表現能力 調査」結果との比較から－：査読論文	単著	平成26年3月	大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第46号	村瀬（1984）が1983年に実施した絵画表現能力調査の評定尺度を用いて，北海道教育大学附属学校の児童生徒3400名を対象に同様の調査実施し，その結果の比較・考察から，現代的な小中学生の絵画表現の傾向及び課題を明らかにした。
	6．The wood craft in Art Education using Ainu pattern by Junior high school students：査読論文	共著	平成26年2月	日本基礎造形学会誌「基礎造形」023	先行研究および文献を基にアイヌ文様構成の題材化の教育的意義を明らかにするとともに，実践例における生徒作品から，文様構成のパターンを明らかにした。

氏名	水野　一英
学位	修士（教育学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
美術教育法B	（著書） 1．学習指導要領解説美術編	共著	平成20年6月	文部科学省	学習指導要領は、各教科（美術科）の目標や内 容を文部科学省が定めたもので、解説書は、その内容をより具体的かつ明確にするために作成した教員向けの書籍である。 共同研究により抽出不可能
	2．評価規準・評価方法の工夫改善に関する調査研究	共著	平成23年２月	国立教育政策研究所	中学校の学習の評価においては、目標に準拠した評価が一層重視されることに伴い、各学校における評価規準、評価方法等の工夫改善、評価の客観性や信頼性を高める取組が求められている。その際の参考となる資料を提供することをねらいとして作成した書籍である。 共同研究により抽出不可能

氏名	村田　尋如
学位	修士（政治学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
社会科教育法A 公民教育法A 公民教育法B	（著書） 1．平成22年度研修資料「豊かなコミュニケーション能力に基づく危機回避能力の育成～教師と児童生徒間で起こる事故防止のために～	共著	平成22年12月	北海道教育研究所	教員が体罰を行う原因について分析し、原因に対応した解決策を研修するため、実際の生徒指導等の場面における体罰回避の為の方法等に関して、教育相談的手法やアサーション等の考え方など、効果的な研修方法について執筆。（執筆部分：P．1～18、P．30～39）
	2．最新版倫理資料集	共著	平成24年1月	清水書院	高校の公民科の科目「倫理」の指導に資する資料集であり、教科書を補足するとともに、センター試験等の大学入試はもとより、大学生や一般社会人の教養教育としても活用可能な内容で執筆及び監修を実施。（共同研究により抽出不可能。）

氏名	加藤　裕明
学位	博士（教育学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
特別活動論	（学術論文等） 1.「劇教育による協働的創造性育成過程の質的研究―演劇部活動における高校生の変化―」	単著	平成28年3月	北海道大学大学院教育学院、教育学博士学位認定論文 （205頁）	本論文は、教育の基本理念としての協働性、創造性に焦点をあて、これまでの国内・外における学習理論をふまえた上で、それらを高校生がいかに高めるかを明らかにした実証研究である。従来の創造性研究は、個人を対象にし、集団の相乗的なダイナミズムは等閑に付されてきた。本論文は、演劇という協働を必須とする活動の全過程に焦点をあて、3年間に渡るリサーチによって、生徒の創造性が協働によって相互に高まる過程を明らかにした。
	2.「総合学習における教育内容の検討－高校におけるアイヌ史学習の主体的、協働的な学びの視点から－」	単著	平成29年3月	北海道地域文化学会『北海道地域文化研究』第9号 （155頁）	本論文は、高校の「総合的な学習の時間」と、教科（日本史）教育とを、いかに接続させるのか、その具体的な方法を論じたものである。本論では特に、総合学習を現在の教育課題を照射し、それを改革する可能性を含むものとして位置づけ、受験準備のためだけでなく、学習が本来内包しているはずのレリバンス、すなわち現実的な関わり（地元・北海道との現実的な結びつき）を実感し、探究出来るような総合学習の内容を示した。（pp.74-94）
	3.「高校生の自治的活動づくりの経験―高校演劇部の活動過程に着目して―」	単著	平成29年8月	日本生活指導学会『生活指導研究』第34号（111頁）	本論文は、特別活動を想定し、実際の演劇活動に焦点をあて、自治的、民主的な集団作りの場としての機能と、そこに関わる教師の支援のあり方との関係性を明らかにしたものである。本論文では、高校生の演劇活動を対象に、参与観察及び当事者（生徒）が残した各種のテキストデータにもとづき、活動する高校生の自治活動づくりの実際を再現し、活動に向かう若者の心理的側面を明らかにした。（pp.51-64）
	4.「新教育課程に向けた総合学習の教材及び教育内容に関する検討－「キャリア教育」の課題をふまえて－」	共著	平成30年3月	札幌大谷大学『札幌大谷大学社会学部論集』第6号 （132頁）	本稿は、新しい教育課程の総合学習をにらみ、その教材・教育内容について、「キャリア教育」のあり方と結びつけ、具体的、反省的に分析を行った。その結果、従来の「キャリア教育」の問題点をふまえ探究できるような自主教材（ワークシート）の作成方法、及びインタビューによる職業、労働に関する具体的な取材方法、そしてそれらをまとめ、発表に至るまでの生徒の活動と教師の支援を明らかにした。（pp.22-45） 著者：加藤裕明、荒井眞一

氏名	藪　淳一
学位	学士（保健学）

担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
職業論	（業績等） 1．放送局でアナウンサー職 2．北海道私立幼稚園協会教育研究委員長		平成4年4月～平成20年9月 平成26年5月～		テレビ、ラジオ等の現場を通して、「伝える」「聴く」のコミュニケーション 道内私立幼稚園の教員研修の企画・運営、講師など